

左党オヤジの 良い酔い散歩



Vol.4
日本の国道「起点」
お江戸「日本橋」で猪口(ちよこ)と散歩

「さてと、今回はどこを、まったり、ほっこり、歩こうか……」

などと、いつもながら悩んでいると、阿吽の呼吸というか、痒いところに手が届くというか、いつも絶妙なタイミングで、グッドアイデアを出してくれる我が女房。

「ねえねえ、『にいがた酒の陣』ってイベントが開催されるって。散歩ネタにいいんじゃない？」
「褒めたばかりなのに……。健脚自慢とはいえず、新潟まで「散歩」って……。確かに、最寄り駅からシャトル便が出るからアクセスは便利で、「食のコンテス」も堪能したいし……でもやはり散歩に行く距離じゃないの……」

「そんなの当たり前でしょ。新潟まで散歩にでかける人なんてまずいないわよ。東京で開かれているの！ その一週間前に」

えっ、東京の三越日本橋本店で「にいがた酒の陣 in 日本橋 & 新潟特産品フェア」の試飲会が1週間催されるの？ それを早く言ってくれよ。新幹線を使って、散歩に行くのから思い、我が財布から福沢論吉翁がひらひらと飛び去っていく情景を思い浮かべていたよ。

それなら話は別だ、東京で開かれている「にいがた酒の陣」まで散歩しましょう。ついでに日本橋界隈をうろつろつろだな。

まずは、日本橋に所在するコンタツ本社前からシンボルの日本橋へ。150年の歴史を有する老舗、榮太郎本舗の前を通り過ぎ、中央通りを日本の国道の元標「日本橋」へ。通称「イチコク」。この国道1号線、4号線、6号線、20号線など7幹線国道の起点でもある。通りの反対側には日本橋魚河岸跡の碑がある。なにに《天正年間(1573~1592)に家康の関東入国の際、摂津国(大阪府の一部と兵庫県の一部)西成郡の漁夫30余名を江戸に移した。(以下略)》と碑文に書かれている。おだやかな春の日、日本橋の欄干ではのんびりと鳩も日向ほっこり。



目的はすぐそこ、三越本店である。新しい商業施設である「コレド室町」や「YUI-ITTO (ユイト)」にも行きたいという嫁の要望を取って聞こえないふりをして、三越の懐かしさ漂うエレベーターに乗り込む。エレベーターガールの後ろ姿いいなあ、なんてセクハラめいた思いを打ち消しながら催事フロアのある7階へと昇っていく。

「にいがた酒の陣」とは新潟県酒造組合が設立50周年を記念して、2004年から県内で開催している日本酒の一大イベントだ。国内最大級の清酒祭りと言ってもいい。そのイベントが三越に集結しているのだ。なんでも、新潟県内の80歳、170銘柄の清酒が地域ごとに用意されているんだと。5枚もしくは10枚綴

りの試飲チケットを購入し、「三越オリジナル試飲お猪口」でグイッとつけるんだと。日本酒の消費が低迷していると言われるのが嘘のように地酒ファンで大混雑している。

お隣りで開催されている《家族ではじめるソトアソビ》なるイベントでは、けん玉コンテストが開催され、子どもたちが黄色い声援で大はしゃぎ。こちらはいろんな酒を飲めると赤ら顔のおじさんたちが怪気炎という、なんとも異様な光景だ。

その熱気に何とも圧倒されるが、気分としては美味い酒にありつけない。オリジナルお猪口&チケットは既に購入済みである。

何はともあれ、イベントスペースの一角に設けられた「酒の陣カウンター」へ急こう。ここでは新潟の蔵元を「上越」「中越」「下越」「佐渡」と地域ごとに試飲ができるようになっている。まずは一番蔵数の多い中越から攻める。ほとんど口にしたことがない銘柄ばかりだ。それにしても左党の人垣が凄く。気後れしているが飲み損ねる。後ろから手を伸ばし、猪口を差し出して蔵人にアピールだ。狙いは純米吟醸。手始めに久須美酒造の「清泉 純米吟醸」に竹田酒造店の「かたふね」を立て続けにチョイスしてみた。うん、美味い。

ところで、同行していた嫁はどうした？ すると人垣の中から黒い板の上に載せられた新潟の肴を手に、やおら登場。どちらかという酒より食派の嫁、やはりそうきたか。「油揚げの味噌漬け」、「クリームチーズ粕漬」、「ピリッと辛さが美味い山古志村の唐辛子を使った「かぐら南蛮味噌」「いか昆布巻」「かんずり入りいか塩辛」と豪華地のモノ5点盛り。どれも酒に合う。ちなみにかんずりとは越後妙高の地元唐辛子から作られた調味料だ。そんな肴をあてに、上越酒造の「越後美人 純米吟醸」をくいつ。

さすが、我が女房、気が利いているなど褒めると、その女房がこう言う。

「美人」っていうラベルだけで選んだわね。鼻の下が伸びてるわよ。どうせ味わうなら、滅多に飲めない値段の高いお酒にしなさい！」
確かに、「美人」って語句に惹かれた自分が恥ずかしいが、目の前に並ぶ数多くの酒類。ラベルの雰囲気や、酒の名だけで選んでもどうも目移りがする。価格の高い酒か。なんとも答えようがないが「理あるか。気が利いているか、現実的なのか……」

ということで値段で選んだのが、高橋酒造の「八」純米吟醸。この中では高価な部類だろう。2000円越え。なるほどこれも美味い。せっかくだから佐渡ヶ島の酒も飲んでみたい。最後は天領酒造の「天領 朱鷺浪漫」を口にも。これが佐渡の酒か。いけるなあ。そんなタイミングに女房が戻ってきた。ご満悦の笑顔だ。どうやら「へぎそば」を食べて来たようだ。抜かりない。

だが、我が女房は満腹になると眠くなる。相手の筆者は酒が入ると眠くなる。……というところで、帰宅の途へ。電車では二人揃ってもちろん爆睡で散歩の続きは夢の中で。

